南半球便り（その 4）：ダーウィン公式訪問

2021 年 3 月 1 日

2 月 17 日に総督に信任状を捧呈し，大使としての業務を正式に開始しました。連邦制の豪州では，新任の大使は各州を公式訪問して挨拶することとなっています。そこで，第一弾の公式訪問先として選んだのが，北部準州（Northern Territory）であり，州都ダーウィンを 18 日から 21 日まで訪問してきました。北部準州を管轄する紀谷シドニー総領事他が同行してくれました

（1）ダーウィンと日本とのつながり

北部準州は，豪州国土の北半分の真中部分を占める，面積 135 万平方キロの大きな州です。ただし，人口は僅かに 24 万 6 千人。ダーウィンも，シドニーやメルボルンと違って，多くの日本人にはなじみがないかもしれません。ただし，日本でも公開されたヒュー・ジャックマン，ニコール・キッドマン主演映画「オーストラリア」の舞台ともなった土地で，実は日本との関わりが浅くありません。歴史，ビジネス，安全保障の 3 つの関わりがあるのです。

（2）歴史

今回私がダーウィンに赴いたのも，2 月 19 日の空爆戦没者追悼式典（その模様については，テレビ報道参照）に招待されたからでもあります。第二次世界大戦中の 1942 年 2 月 19 日以降，旧日本軍によるダーウィンを中心とする豪州北部沿岸地域への空爆が通算 97 回行われ，260 名以上の死者と 410 名以上の負傷者が発生したと言われています。それに先立つ 1 月 20 日には，旧日本海軍の伊号第 124 潜水艦が豪州海軍掃海艇の爆雷と米軍航空機の爆弾を受けてダーウィン市沖合い西北西約 95 キロの地点で沈没。乗員 80 名全員が死亡し，今なおご遺体が海底の艦内に残されたままになっています。

ダーウィン空爆戦没者追悼式典での献花

このように見てくると，ダーウィンには，戦争が双方にもたらした深い傷跡が今なお残っていることがお分かりいただけるかと思います。これらの貴い人命の犠牲の上に今の平和と繁栄を享受している人間の一人として，ダーウィン空爆で沈没させられた米駆逐艦ピアリー号，伊号第 124 潜水艦の双方についても，ささやかな献花をしてきた次第です。

米駆逐艦ピアリー号慰霊碑への献花

ただし，戦争にまつわる歴史が全てでは決してありません。もともと日本は豪州の北部地域と深い関わりがあります。明治時代以降，クイーンズランド州の木曜島（司馬遼太郎氏の「木曜島の夜会」で名高い）や西オーストラリア州のブルーム，さらにはダーウィンには真珠貝等の採取のために数々の日本人が潜水夫として来訪し，精力的に活動していました。また，第一次世界大戦では，日本と豪州は同じ連合国側に立って参戦しました。

伊号第 124 潜水艦慰霊碑への献花

また，戦後の和解の努力には特筆すべきものがあります。1950 年代から 60 年代にかけてダーウィン港で撃沈された艦船や瓦礫が航行の邪魔にならないよう，1950 年代から 60 年代にかけて黙々とサルベージ作業に取り組んだ藤田サルベージ会社。その藤田ファミリーと連合教会との心温まる交流の話。日豪双方の当事者の地道で我慢強い取り組みには，頭が下がります。

連合教会への訪問

（3）ビジネス

ダーウィンと日本を結びつける紐帯として今後も大きな役割を果たすことが期待されるのがビジネス関係です。郊外で展開されているイクシス LNG プロジェクトは，400 億米ドル規模の日本企業としては記録的な対外投資案件。INPEX 社が日本企業初の大型 LNG プロジェクトの運営を担い，日本の年間 LNG 輸入量の約７％を賄うという壮大なプロジェクトです。私も視察させてもらいましたが，非常に壮大なスケールで度肝を抜かれました。日本人と豪州人の技術者が力を合わせて日々のオペレーションに取り組んでいる姿も，実に印象的でした。

INPEX 社視察

このほかにも，日本企業が関わって世界最大級の海老養殖池を造成する事業もあります。北部準州側としては，宇宙やレアアースに関する協力も進めたいとして，日本企業との連携に強い関心を有しています。

もう一つ見逃せないのが観光です。北部準州の南部に位置するウルル（通称エアーズ・ロック）人気も手伝って，2019 年の北部準州への外国人観光客のトップは日本人でした。

（４）安全保障

ダーウィンは豪州のアジアへの玄関口。インド洋と太平洋を結節する要衝の地でもあります。「飛行機でキャンベラに行くよりもシンガポールに行く方が早い。」と言われるくらいです。そうした地の利と人口がまばらな土地柄が手伝って，格好の軍事演習場となっています。

豪海軍が主催する多国間共同演習「カカドゥ」には 2008 年以降海上自衛隊が参加，陸上自衛隊も「サザン・ジャッカルー」という共同訓練に参加するなど，近年急速に進みつつある日豪安全保障協力の舞台になっています。交渉中のＲＡＡ協定が締結された暁には，こうした共同訓練の質，量もさらに向上することが期待されます。

北方コマンド視察

豪州にとっての安全保障上の懸念が北方から来ることを考えれば，最前線に位置するダーウィンの戦略的重要性は，ますます注目されることとなるでしょう。実際，米国の海兵隊が毎年一定期間ダーウィンに駐屯するようになってから，既に 10 年余りが経ちました。ダーウィン所在の豪州国防軍北方コマンドを視察し，豪米両軍が共存し，協力を重ねている姿勢も目の当たりにしてきました。

（５）結びに

キャンベラから直行便がなく，シドニー経由でシドニーから４時間もかかるというダーウィン。豪州の広さを感じさせる出張であるとともに，豪州が日本に寄せる視線の熱さの理由の一端が良く理解できた出張でもありました。皆様も是非一度足を運んでいただいたら如何でしょうか。

山上信吾